

羅 針 盤			達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価				
評価対象	評価項目	具体的数値項目	総合						
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。	生徒C 保護者B	B	<ul style="list-style-type: none"> コースの特徴をもとにICT機器の効果的な活用と言語活動や対話を重視し、生徒にとって分かりやすい授業を継続的に実施して、生徒が主体的に学習に取り組めるように努めた。基本的な学習事項の習得、定着に向けて、1年次は、国語・数学・英語において習熟度別指導、2・3年次は、コース別の少人数指導を行い、基礎学力の向上及び専門性を高めた。地域学習や行事については内容の見直しを行い、昨年と同様な良い成果を挙げることができた。生徒の取組状況は各学年ともに前向きであった。 今後も言語活動の充実を図るとともに、分かりやすい授業の実践や生徒の実態にあった教育活動を行っていく。また生徒自ら学校が好きと思う層を増やしていきけるよう教育活動を通して検討していく。習熟度別や少人数制の指導の特徴を活かし、今後も粘り強く進めていく。落ち着いた学習環境を維持し、生徒たちの学力向上のため、さらなる授業改善に努める。地域学習や行事の内容についての工夫をさらに進め、生徒がより意欲的な姿勢で取り組めるよう事前・事後指導に努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を好きと言えない生徒が3分の1いるというのは、地元の中学生在が入学してこず、本校が周辺地域の受け皿になっている現状を表しているのではないかと感じる。 ・地元の生徒でないにしても、地域学習で下仁田を学ぶ理由について、物語性を持ってもっと強く動機付けをおこなうことが、郷土愛(地域愛)から「愛校心」につながるのではないかと感じる。 			
		② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A				A		
		③「総合的な探究の時間」や学年行事等に、意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A				A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴である習熟度別指導や少人数指導、言語活動の充実が図られるよう場面を設定しながら対応してきた。特に、個々の生徒の学習状況に応じた個別の支援を行い、学習意欲の向上を図り、多様な生徒への対応として授業全体の中に一人一人の到達度に応じた「みとり」を取り入れていく。また、コースの特色を生かした授業を工夫するとともに、進路に応じた対策として個別の面接練習や小論文の指導など、個に応じた実践してきた。生徒に確かな学力を身につけさせる前提として全教職員が共通理解のもと、授業規律の確保に努めている。その甲斐あって生徒の授業態度はとても良好である。 今後も観点別評価をもとに授業展開するとともに、教師間での情報を共有し生徒の学習意欲を向上につなげたい。授業での分離令の徹底や授業中のマナー違反を見逃さない体制は今後も継続していく。生徒には将来に向け、学力を身につけることの大切さを引き続き伝えていく。一斉授業では補えない学習の遅れや定期考査に対応するため、学年・教科で協力のもと、放課後等の時間を利用して個別指導に取り組み、良い成果になって現れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース編成の一部改訂は、生徒数の減少に対して、各科目の特性を生かしながらも、適正な人数での授業を念頭に置いてのことだが、細かく指導をしていることがわかる。職員のみならず、無理なさらぬように。 ・中学時代に通学できなかった生徒が通えていることは素晴らしい。そういった雰囲気がある学校ではないか。 ・3学年の重点目標「その場に応じた行動を心がけ、迷ったら周囲に相談して適切な判断を心がける」これは非常に重要なことだと思う。 ・考査前の「学習会」で、教え合いも含め、生徒が主体的に学習に取り組む姿が見られ、かつ成果を上げているのは素晴らしいこと。 			
		⑤多様な進路に対応した学習が役立っていると評価している生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A				A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A	A					
		⑦学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A	A					
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。	生徒A 保護者B			A	<ul style="list-style-type: none"> 面談週間を含め、学校生活全般において声かけを実践し、不安を抱える生徒への対応に努めた。全職員で情報の共有化を図るとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携し対応している。いじめが疑われる事案は速やかにいじめ対策委員会に報告され、組織的に対応してきた。生徒会による年間を通じた「あいさつ運動」を実践し、学校全体で「いじめ撲滅」に取り組むメッセージを日々伝えてきた。『学校いじめ防止基本方針』について生徒や保護者がきちんと認識できているのは、いじめを防止する下地はできていると思われる。長期欠席の生徒や遅刻の多い生徒への対応では、生徒への粘り強い指導とともに、保護者への連絡を密に行い、スクールカウンセラーへ相談するなどの連携を図り対応してきた。多くの生徒がルールを遵守した学校生活を送っている。 普段の生徒の変化を捉え、面談週間に限らず全職員による学校生活全ての場面で生徒の変化に気を配りながら、こちらからの声かけを継続していく。またスクールカウンセラーや外部機関との連携を密にし、生徒理解を深める研修なども実践していく。いじめ防止に関する機会を増やすとともに、生徒の多様性を認めていく場を通じて、いじめに繋がらないように生徒の心を育てていく。またアンケートや面談等による情報収集のさらなる徹底、綿密な職員間の情報共有を行い、学校全体で早期発見、早期解決に向けて今後も努めていく。特に長期欠席する生徒には保護者との連携を密にするとともに、スクールカウンセラーや外部機関との相談体制を強化することで対応を図っていく。進路との関連を強く意識づけ、生徒の規範意識をさらなる向上、授業規律の徹底、日頃の声かけなどを根気良く行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技大会を見学した際、同じコートに入っている生徒同士で声を掛け合う場面が見られなかった。コロナの影響という面もあるかもしれないが、生徒のコミュニケーション能力が落ちてきているように感じる。 ・いじめに関する外部アンケートの結果、Cが目につくが、生徒、保護者とも目標値とのほぼ境界線上であり、7月の調査に比べ好転しているという説明を聞いて少し安堵した。 ・「自己愛」と「人との関係づくり」を育む教育のために具体的に何をどうすればいいのかわからないが、SC以外に外部団体の協力も得て進めることはできないだろうか。 ・生徒主体の活動として、球技大会のドッチビーの紹介があったが、5年後の湯けむり国スポを視野に、今後は障害者競技にも目を向けてみたらよいのではないかと感じる。 ・自己評価と外部アンケートの結果の乖離に改善の余地を感じる。
			⑨学校はいじめの防止と早期発見を積極的に行っていると感じている生徒が85%以上である。	生徒C 保護者C					
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。		⑩「学校は「学校いじめ防止」基本方針」について、生徒に説明している」と認識している生徒が85%以上である。	生徒A 保護者A	A					
		⑪欠席率5%以下、遅刻率3%以下である。	生徒B 保護者B	B					
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関連する行事を計画・立案し実践することで進路への意識を高めた。また『進路ファイル(キャリアパスポート)』を活用することで、学期における目標・活動・ふりかえりの機会とし、進路行事の記録も保管し、次年度への指導につなげる機会とした。進路意識の向上や進路実現に向け、進路指導部と学年で連携し、時には外部との連携を取ることにより弾力的な指導を行うことができた。生徒たちは意欲をもって取り組んでいた。 今後も進路に関する行事を取り入れることで進路への意識を向上させていくとともに、『進路ファイル(キャリアパスポート)』の活用も引き続き実施していきたい。3年生はもちろん、1・2年生も日常生活の中で卒業後の進路を考え、準備を積み重ね、成果に繋がれるように、学年、教務部、生徒指導部とも連携して進路指導にあたっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年生と語る会」を参観して、生徒がメモを取りながら熱心に話を聞いている姿があった。生徒の成長を感じた。これは指導の成果の表れ。 ・「3年生と語る会」の中で、司会の職員の「間」、励ましの言葉が非常に良かった。生徒同士のやりとりがあればさらによかったと思う。 			
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	生徒A 保護者A				A		
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬進路関連行事に意欲的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	保護者A				A		
⑭PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。		保護者A	A						
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	保護者A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子を知る上で、WEBページの随時更新を心がけ、保護者や地域へ向けての広報活動をより迅速に行うことができた。学校行事の参加やPTA行事も実施している。 今後、本校の特色や活動内容をできるだけ多く盛り込み、さらに広く伝わる内容のWEBページを作成していく。PTA運営委員会を中心に、広く保護者からの意見を募り、保護者ができるだけ参加できるように学校行事の内容を見直ししていく。また、長期休業中や休日のボランティア活動にも保護者が参加できるように検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との共通理解、情報の共有化が重要。 			
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	生徒A 保護者A				A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯「ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	生徒A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員相互の授業参観や研修を行い、ICT機器を効果的に活用する授業がさらに増えてきた。またICT機器を活用したWEBアンケートや通知等について、生徒・保護者に必要な情報をできるだけスピーディーかつ分かり易く発信することができた。 教員相互の授業参観や研修を通じて得た方法で使えるものは随時取り入れるとともに、直接取り入れなくても何らかの手掛かりとして工夫を凝らし、ICT機器をより効果的に活用した授業を実践する。ICT機器を活用したWEBアンケートや通知等については導入しつつ、さらに通知文も併用することで漏れなく情報が行き届くように対応している。今後も生徒や保護者に必要な情報を適切に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに加え、「言語活動や対話を重視する」という視点も重要。生徒の多様性を認めていく場面につながる。 ・HPだけでは分からないことも多い。外に出て、実際に自分の目で見て感じることも必要。 			
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	生徒A 保護者A				A		
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。	12 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。	⑰「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。	生徒A 保護者A	A	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容がコロナ前の状態に戻ったこともあって、地域との連携を模索しながら活動の範囲も広げることができた。地元と連携した取り組みが10年目を迎え、地域に役立つ人材育成という意味で各コースの特徴を活かし継続して取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と高校との関係に義務教育校も加え、その三者間での連携強化も模索できないか。 			